

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点 ※外国語学部は 100 点	大問数 2 題
分量 (昨年比較) [ 減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加 ]		難易度変化 (昨年比較) [ 易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化 ]
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉 問題文・設問形式ともに例年どおり。2/5 の全学日程 2 と同様、漢字問題以外はすべて内容説明問題であった。</p> <p>〈古文〉 問題文・設問形式ともに例年どおり。傍線部はないものの、問題文自体は比較的読解しやすかった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 森明子 「マイノリティの歴史学 ——オリエンタリズム、 ジェンダー、ポスト・ コロニアリズム」  ○行数：115 行	マイノリティの歴史学の社会的・思想的な背景や方法論について述べた文章。問 1 は、文化が社会によってどのように受容されるかという点にまで言及する。問 2 の選択肢 b は「西欧における」が不適当。問 3 の選択肢 a は「サイドを批判した」が不適当。問 4 の選択肢 d は「これからの文化人類学の問題」が不適当。問 8 の漢字問題の㊦は、見慣れない語で、難しかったかもしれない。 ※ (昨年度) 評論、111 行、8 問 (8)	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (平安・作り物語) 作者未詳 『落窪物語』  ○行数：24 行 ○和歌 1 首を含む	婚姻を目前にして、雨ゆえに落窪の君のもとへ通えず気を揉んでいる少将の話。問 2 は「いとほし」の解釈に注意する。問 4 は「君」が帯刀の主人である少将を指すことを踏まえる。問 9 は「はべる」が補助動詞であること、問 10 は「知らで」の「で」が打消の接続助詞であると見抜くことがポイント。 ※ (昨年度) 南北朝から室町・擬古物語、34 行、10 問 (10)	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	8問 (8)	8		1	7								
二	10問 (10)	10			10								

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>問題文を丁寧に読解するだけでなく、選択肢どうしも見比べるようにしよう。漢字問題も例年出題されているので、普段から漢字の書きとりも練習しておくこと。</p> <p>〈古文〉</p> <p>単語や語句、敬意表現など基本的な事項の確認を怠らないこと。問題文を丁寧に読み、主語や目的語を補いながら読解を進めていこう。また、一つひとつの選択肢を順に確認して解くのではなく、一つの選択肢の“キズ”を見つけた際は、他の選択肢とも照合するなどして、解答時間を短縮しよう。</p>